

令和5年度 福井県立大野高等学校全日制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	<p>a 家庭学習の現状をより正確に把握し、課題への取り組みや主体的な学習を促していく。</p> <p>目標：生徒の家庭学習充実度の目標指数 肯定的評価60%以上</p> <p>b 公開授業や研修会等の授業研究体制を通して、指導方法を研究し実践する中で授業改善に取り組む。</p> <p>目標：教員の授業力改善および生徒の授業満足度の目標指数 肯定的評価80%以上</p>	<p>a に関しては、生徒アンケート質問2の回答A、Bの値が我々の期待する値とはかけ離れており、主体的な学習の取り組みを促しているとは言えない。しかし、教職員アンケートでは家庭学習の課題に工夫をしようとする努力が見られる。また、保護者アンケートでは家庭学習の習慣が定着しているという評価を得ている。今後を期待して経過を見ていきたい。</p> <p>b 今年度より授業改善、指導力向上のための研修会を、教科の枠を取り払って実施し、多くの教員が参加した。また、個々の教員がこの数年授業改善に取り組んでおり、これらのことが生徒の授業満足度や保護者の学力向上の取り組みにおいて高い評価を得ているものと思われる。</p>	<p>a 学習課題の質の向上、課題点検の工夫、授業での学習内容の扱い方など、各教科の特性を踏まえながら、量・質ともに適切な学習課題を探る。また、家庭との情報交換に努め、学校と家庭がより連携して生徒の学力向上を目指す。</p> <p>b 引き続き校内での公開授業や研修会を定期的にも実施し、授業の改善、指導力の向上を図る。また、次年度も保護者に授業を公開する日を設け、外からの授業評価を参考にし、改善に生かす。</p>
2 生徒支援	<p>a 毎朝の登校指導や毎月の容儀指導、交通安全指導の徹底により、生徒の規範意識の向上に努める。</p> <p>目標：生徒の規範意識達成の目標指数 肯定的評価95%以上</p> <p>b 学校祭・委員会活動・部活動を充実させ、生徒の主体的活動を推進する。</p> <p>目標：生徒の生徒会行事や部・サークル活動の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 正しい身なりで学校生活を送るように努めたと回答した生徒・保護者は、96%以上あり、高い意識が見られた。教職員の容儀指導については、積極的に取り組んだ教職員は、93%で前年より7%増加した。容儀指導について、2年連続して増加しており、教職員の高い意識があると思われる。</p> <p>b 令和4年度から新しく項目に加えた生徒会行事・委員会活動の取り組みについて、充実・満足していると回答した生徒は97%、保護者は98%であった。 本校の部活動に満足していると回答した保護者は7年連続で89%以上となった。部活動指導を行ったと回答した教職員は72%であった。充実した部活動ができたと回答した生徒は、87%であった。3年生は95%の生徒が部活動に満足したと回答しており、1・2年生で満足していると回答している生徒が少ないと思われる。</p>	<p>a 登下校の挨拶や交通指導を効果的かつ充実した活動にする。また、身なりについて風紀委員会が中心となって点検をする。全教職員との共通理解を図るため、校内メッセージを用いたり、集会などの機会に丁寧に説明をしたりする。また、生徒会や風紀委員会を中心に校則の見直しや制服の検討に取り組む。</p> <p>b 生徒会や委員会活動については、学年を越えて協力しながら効率的かつ創意工夫を凝らして取り組むことができるように支援する。さらに、生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、学校行事の適正化・効率化に努める。</p> <p>今まで以上に、部活動やその他の活動に生徒が主体的に取り組むことができるように努め、リーダーの育成を図る。生徒が充実した学校生活ができるように、環境を整えて支援する。</p>
3 進路支援	<p>a 進路に係わる全体および個人への支援の検証と実践を通して、進路目標の早期設定と具体化に努める。</p> <p>目標：進路意識高揚（生徒）の目標指数 肯定的評価90%以上</p> <p>b 各種研修会・ガイダンス等への参加を促し、進路意識の高揚と支援体制の充実を図る。</p> <p>目標：進路意識高揚（教員）の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 進路目標の早期設定と具体化に関し、「進路意識が向上した」と回答した生徒が90%（昨年比+1%）と前年度よりわずかに増加した。本校の進路指導に関する保護者の満足度は84%（昨年比-7%）、生徒の進路意識高揚の目標指数は90%を達成しており、例年同様の満足度を得られている。次年度も高い満足度を得られるように内容の検討を行っていきたい。</p> <p>b 「生徒の進路意識が向上した」と回答した教員が100%で前年度と同じであった。また、教員の研修会等への参加率は90%（昨年比+7%）で、前年度より増加し目標指数を達成した。教員向けの講座として進路研修会や小論文研修会を実施し、予備校の教員研修会がオンラインで開催されたため増加したと考えられる。次年度もオンラインの活用を含め、指導力の向上に努めたい。</p>	<p>a 生徒の進路目標の早期設定と具体化を行うために、1・2年生での大学訪問や進路講演会、ガイダンス、保護者対象の進路研修会等、ホームページ等での適切な進路情報の提供を行いたい。特に見学や体験が進路意識向上に深く関係しているため、オンラインの活用を含めて内容および方法の検討を行い、充実を図る。</p> <p>b 今年度実施された大学入学共通テストでは、本校の成績は全国平均と比較し文系はやや上昇し、理系はやや下降した。次年度の新教育課程による初めての共通テストに向けて、問題の分析や情報収集、今後の対応策や支援方法の再検討を行い、生徒の進路実現を図る。</p>

<p>4 保健管理</p>	<p>a 各種講演会や保健だよりの発行、校内掲示板や大高メールの活用などで啓発活動を充実し、家庭とも連携して生徒の健康・安全に対する意識を向上させる。</p> <p>目標：生徒の健康管理意識の目標指数 肯定的評価90%以上</p> <p>b 面談やいじめのアンケートなどを実施し、学年会や関係部署と密に連携した教育相談活動を行い、生徒の抱える問題の早期発見・早期解決を図りながら適切に対応する。</p> <p>目標：生徒の教育相談活動の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 自分の健康に心がけている生徒は全体の93%で前年度と同様の高い数値である。学年別では、1年生91%、2年生92%、3年生96%と学年が上がるにしたがってその数値が上がり、健康に対する意識が年々向上していることがわかる。</p> <p>b 相談したいことがあったら、誰かに悩みを相談できそうだと答えた生徒は92%で、前年度とほぼ同様の値である。その中でも十分に相談できそうである、と答えた生徒の割合は4割以上であり、過去数年に比べて高くなっている。特に1年生のこの数値について、一昨年までは4割未満であったところ、2年連続で4~5割になるなど、高い数値になっている。1、3年生が47%、2年生でやや減少し41%である。また、教職員の教育相談に対する意識も96%と高い水準であり、全教職員で熱心に生徒の教育相談活動に取り組んでいる姿勢が現れている。</p>	<p>a 生徒・保護者対象の保健だより・各種講演会の内容の充実、保健・環境整備委員会活動の活発化を図り、生徒の健康管理・安全に対する意識の向上を図る。また、大高メールを活用して保護者への注意喚起に努める。以上の事柄を継続して取り組みながら、今後の推移や実態を見守っていく。</p> <p>b 生徒が、気軽に教育相談が出来る環境を整備するとともに、初期指導を含め、学校全体での適切な対応を心がける。一方で「誰にも相談できない」と答えている生徒が2%いることにも心を向け、なお一層の支援体制を整えるべきである。校内で相談が出来ない生徒に対しては、個々の事例を鑑みながら電話やオンライン相談先や、適切な外部相談機関を紹介していく。以上の事柄を今後も継続して取り組む。</p>
<p>5 図書支援 保護者との連携</p>	<p>a 朝読書や古本市、図書館だより、図書掲示板などを活用し、読書習慣を定着させる。</p> <p>目標：年間2冊以上の読書をした生徒70%以上</p> <p>b PTA総会や保護者懇談会などへの保護者の参加を促し、PTA活動の内容および情報提供を充実させる。</p> <p>目標：PTA活動の内容および情報提供（保護者）の目標指数 肯定的評価80%以上</p>	<p>a 年間2冊以上読書した生徒は52%であり、目標を大きく下回った。昨年比でも10%の減少となっており読書離れの進行が読み取れる。朝読書が読書習慣のきっかけとして役だったという生徒の割合も47%と昨年比9%の減となり、図書支援の改善は必須である。朝読書が効果的でなかったことには、時間帯が曖昧であることも一因と考えられるので実施方法の変更を提案したい。また、1冊も本を読んでいない生徒が21%と昨年比5%増加しているが、これが本校の進める探究活動での本の利用の少なさを示すものであれば、研究の方法としての読書の必要性を訴えていく必要がある。</p> <p>b PTA活動の内容およびその情報提供について保護者の評価は95%で、昨年度より2%減少はしたが目標を達成している。SNSでの情報提供も功を奏していると考えられる。</p>	<p>a 読書の対象となる「本」とは、趣味で読む本（主として文学作品）だけではなく、探究活動のための本や進路実現のための本なども含まれることを明確にした上で、「本」から知識を得ることや、読解力を高めることの大切さを教職員全体で生徒に示していく必要がある。また、現在、朝読書週間において読書の時間を確実に取れていない状況があるが、現行の校時表では開始から終了までの時刻をそろえられず、改善を図ることは難しいので、朝読書の時程を確立し、読書時間を確保することを提案したい。</p> <p>b 今後も、引き続き保護者懇談会、PTA総会、進路ガイダンスなどの活動内容を充実させ、PTA広報誌「談林」やSNSでの情報発信を積極的に行っていく。</p>
<p>6 探究学習 の推進</p>	<p>a 総合的な探究の時間で、各学年において目標とする力を身につけられるように、組織的な支援体制を構築し、外部機関との連携の強化を図る。</p> <p>目標：生徒の探究的な学びに関する目標指数 肯定的評価90%以上</p> <p>b 生徒の自主的な学びを支援するために、希望制講座の充実と学習アプリの効果的な活用の促進に努める。</p> <p>目標：生徒の自主的な学びに関する目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 総合的な探究の時間で書く力が身についたと答えた3年生は92%であった。この学年は1年生の時から身につけるべき力が身についたと回答した割合が90%を超えている。一方、話したり、聞いたりする力が身についたと回答した2年生は81%、調べる力が身についたと回答した1年生は84%と、多くの生徒が力が身についたと考えているが、両学年とも前年度を下回っている。中学校でも総合的な学習に探究的な内容が組み込まれた年代で、生徒が高校での探究に求める水準が高くなっていることも考えられるため、高校生としての探究の内容を再検討したり、伴走する教員の技量を向上させたりする必要がある。</p> <p>b D-Timeを通じて、自分で考えて学習に取り組む力が身についたと回答した生徒は各学年とも85%で、昨年同様の高い割合になっている。希望制講座が生徒の興味・関心を広げたり、学びを深めたりすることに繋がっていると考えられ、今後も継続して取り組ませたい。</p>	<p>a 総合的な探究の時間で各学年で重点としている力は、いずれの学年においても必要なものであり、各学年の短いスパンの中でそれぞれの力が身についたか自己評価し、年度毎に身についた力を総合評価するしくみに変えていく。また、探究では調査や思考と実践を繰り返す期間が必要であるため、来年度の2年生からは成果発表会の時期を遅くして、じっくり探究に取り組めるようカリキュラムを見直している。また、教員の技量を高めるための研修の機会を設定する。</p> <p>b 時間割の中のD-Timeは来年度から週1回になるが、内容を精選して希望制講座の回数を確保する。また、各種コンテストへの参加希望者や、探究の調査・研究を自主的に深めたい生徒に向けて、放課後時間を積極的に活用できるように、しくみを整えている。</p> <p>学習アプリについてはD-Time以外にも活用できる場を設定し、生徒が自分に必要な学びを自分で選んで活用できる体制づくりを進める。</p>